

湯原王、娘子に贈る歌二首

六三一番

うはへなき ものかも人は かくばかり 遠き家  
道を 帰さく思へば

六三二番

目には見て 手には取らえぬ 月の内の 楓の  
ごとき 妹をいかにせむ

娘子の報へ贈る歌二首

六三三番

ここだくに 思ひけめかも しきたへの 枕片  
去る 夢に見え来し

六三四番

家にして 見れど飽かぬを 草枕 旅にも妻と あ  
るがともしさ